

「ディスカバー農山漁村の宝」 (第5回選定) 選定地区一覧

N0.26 愛媛県 西予市
 企業組合 遊子川ザ・リコピンズ
 リコピンパワーで町づくり人づくり若づくり

N0.27 高知県 北川村
 北川村ゆず輸出促進協議会
 村のゆずからJAPONの「YUZU」へ

N0.28 福岡県 太宰府市
 福岡県立福岡農業高等学校
 食品科学科梅研究班
 地域の縁を繋ぐ「太宰府梅サイダー」

N0.29 大分県 豊後大野市
 株式会社 成美
 地域資源と女性愛で「美味しい笑顔」を創る

No.30 大分県 国東市
 ウーマンメイク株式会社
 女性が輝く！女性だけの農業法人

N0.31 宮崎県 串間市
 株式会社 くしまアオイファーム
 小芋で世界へ強い農業はこえていく～

N0.32 沖縄県 南城市
 株式会社 美らイチゴ
 地域に広がる笑顔の輪～南国の母狩り～

No.21 奈良県 川上村
 一般社団法人 吉野かわかみ社中
 室町時代から続く吉野林業を次の500年へ

N0.22 島根県 大田市
 おおだ一日漁推進協同組合
 伝統漁法「一日漁」で地域活性化！

N0.23 岡山県 美作市
 地美恵の郷みまさか
 (美作市獣肉処理施設)
 まさか、みまさか ジビエ日本一を目指して

No.24 山口県 周防大島町
 株式会社 瀬戸内ジャムズガーデン
 人の繋がりが地域資源

No.25 徳島県 阿南市
 加茂谷元気なまちづくり会
 個性とチームワークで住民主体のむらづくり

N0.20 兵庫県 丹波市
 有限会社 こやま園
 新丹波ブランド 丹波なた豆茶を世界に発信

N0.16 愛知県 豊田市
 一般社団法人 おいでん・さんそん
 つながりが生んだ「とよた里山猪肉カレー」

N0.17 愛知県 新城市
 つくでスマイル推進協議会
 思い出のあの場所をもう一度再生しよう

No.18 三重県 尾鷲市
 株式会社 梶賀コーポレーション
 小さな漁村の百年燐製文化で全国制覇！

N0.19 京都府 与謝野町
 与謝地域山村活性化協議会
 農福連携で次世代に繋ぐ農村のかたち

N0.11 埼玉県 秩父市
 一般社団法人
 秩父地域おもてなし観光公社
 「ちかいなか秩父」農村交流リゾートへ

N0.12 山梨県 市川三郷町
 株式会社 桑郷
 奇跡の桑で農山漁村(むら) おこし

N0.13 富山県 南砺市
 南砺市商工会利賀村支部
 いま、利賀だから感じる緑と水と人の恵み

N0.14 石川県 羽咋市
 合同会社 のとしし団
 ごっつお まいぞお のとしし大作戦

No.15 福井県 小浜市
 小浜市阿納体験民宿組合
 「いただきます」を未来のこどもたちへ！

N0.01 北海道 帯広市
 株式会社 いただきますカンパニー
 畑ガイドツアーで十勝農業を発信

No.02 北海道 北竜町
 黒千石事業協同組合
 これからの人類を救う、生命の源黒千石大豆

N0.03 北海道 雄武町
 農業生産法人 株式会社 神門
 新品種で町興し！韃靼そばが雄武を変える！

N0.04 岩手県 遠野市
 遠野・三陸ブランド海外輸出協議会
 空飛ぶ遠野・三陸のブランド、海外へ

N0.05 宮城県 仙台市
 農事組合法人
 仙台イーストカントリー
 地域の宝を活かした明るい農村の復興

No.06 宮城県 大崎市
 大崎の米『ささ結』
 ブランドコンソーシアム
 ササニシキ系の復権で震災復興を！

N0.07 秋田県 大館市
 大館市まるごと体験推進協議会
 本場のきりたんぽとかつちゃが魅力♪大館市

N0.08 福島県 猪苗代町
 農事組合法人 結乃村農楽団
 見称集落は、「結乃村」宣言！！

N0.09 栃木県 足利市
 有限会社 ココファームワイナリー
 山の学園はワイナリー

No.10 栃木県 茂木町
 株式会社 もてぎブラザ
 6次産業を通じての雇用機会の拡大

(注) 桃色で表示した地区は、各ブロックで最も評価が高かった地区

10

グランプリ

株式会社 もてぎプラザ

地元食材の提供・活用

雇用

6次産業化

— 6次産業を通じての雇用機会の拡大 —

もてぎまち
栃木県 茂木町



ゆずを加工している様子



手づくり工房で製造している
商品の一部



「バウム工房ゆずの木」
の内観



概要

- ゆずの加工品や、町内産米粉と地元産たまごを使用したバウムクーヘンを開発し、地産地消に貢献。
- 加工品等の売上の増加に伴い、「バウムクーヘン第2工場」をオープンするなど、地域の雇用機会の拡大に貢献。
- 平成28年に農事組合法人を立ち上げ、高齢化による将来的な農産物の供給不足に対応。

成果

- 地域の雇用にも貢献し、雇用者数が、4名から34名に増加。（H25～H29）
- 「手づくり工房」及び「バウム工房ゆずの木」の売上が約3,300万円から約1.8億円に増加。（H25～H29）
- 平成28年には「ゆず」だけでなく「いちご・ブルーベリー・えごま・りんご・梅・米」の買取にまで拡大し、農家の所得向上に貢献。

01

フレンドシップ賞

株式会社いただきますカンパニー

農林漁業・農山漁村
文化体験

地元食材の提供・活用

女性・高齢者の活躍

— 畑ガイドツアーで十勝農業を発信 —

おびひろ
北海道 帯広市



定年退職者や主婦などが
有償の畑ガイドとして活躍



小麦畑の風景にも景観価値が
あることを証明



畑の真ん中で素材を活かした
シンプルな昼食



概要

- 十勝では専業農家が多く、農業体験の場がなかったため、子育てサークルを立ち上げ農業体験イベントを始めたことをきっかけに事業化。
- ガイドと一緒に畑を歩き、そこで採れたものを食べる体験「畑ガイドと行く農場ピクニック」を日本で初めて実施。
- 地域の子どもたちに農業を伝えるため、農協やメーカーと協働で学校へも無料で出前訪問を実施。

成果

- 夏休みは首都圏からの家族連れ、春・秋は外国人旅行者など、シーズンを通じた集客ができており、外国人観光客の割合は20～30%に達している。
- 畑ガイドツアーの参加者数は、150人から約2,600人に増加。（H25～H29）
- 参加者数の増加に伴い、ツアーの売上は、約300万円から約1,200万円に増加。（H25～H29）

合同会社 のとしし団

はくい
石川県 羽咋市



鳥獣被害防止

地元食材の提供・活用

ジビエ

— ごつつお まいぞお のとしし大作戦 —

被害対策として捕獲檻を設置



ぼたん鍋用の精肉



道の駅「のと千里浜」での店頭販売



概要

- 平成27年に獣肉加工施設を整備し、捕獲したイノシシを地域資源として活用する、「のとしし大作戦」を開始。
- 地域おこし協力隊1名が「合同会社のととしし団」の代表となり自立。解体・販売などのノウハウを習得し、ジビエの生産を開始。
- ふるさと納税の返礼品に登録し、返礼品ランキングの首位となる等高評価を受ける。

成果

- 精肉販売額は、100万円から1,600万円に増加。（H27～H29）
- 「のとしし」の猪肉をメニューとして提供する店舗は、7軒から35軒に増加。（H27～H29）
- 産業廃棄物として大半が処理される皮も、皮革製品として活用する取組を開始。

北川村ゆず輸出促進協議会

移住・定住

輸出

女性・高齢者の活躍

— 村のゆずからJAPONの「YUZU」へ —

きたがわむら
高知県 北川村

パリで行われたゆず賞味会（H23）



青果輸出作業



SIAL2012(パリ)で青果ゆず出展



概要

- 北川村ゆずの価格平準化及び販売拡大を目的として、海外編の販路を求め輸出促進協議会を設立。
- フランスで開催されたゆず賞味会により、現地での青果の要望が高まり、世界初となるEUへの「青果ゆず」の輸出を開始。
- 輸出拡大により国内外の販売価格も向上し、平均年齢70歳となる生産者の意欲が向上。

成果

- ゆず果汁の輸出数量は、約50tから約72tに増加。（H25～H29）
- 青果ゆずの輸出数量は、約3tから8tに増加。（H25～H29）
- 加工用ゆずの精算単価は、約140円/Kgから約167円/kgに増加。（H25～H29）
- ゆずの販売単価の向上に伴い農家の収入が増加したことにより、ゆず専業農家をを目指す若手が増加。

30

アクティブ賞

ウーマンメイク株式会社

雇用

医療・福祉の活躍

女性・高齢者の活躍

— 女性が輝く！女性だけの農業法人 —

くにさき
大分県 国東市



全員女性☆ 19歳から65歳までの従業員！



女性目線で開発した
商品パッケージ



子連れ出勤OKな環境



概要

- 課題の多い農業分野において、新時代は女性が創るとの想いを込めて、女性だけで起業。
- 柔軟な勤務形態でレタス栽培に取り組み、地元雇用を創出。
- 社会福祉法人と連携し、業務委託や精神障害を抱える若者を積極的に採用。
- 女性の感性を活かし、商品開発でブランド化を図り、売上を伸ばす。

成果

- レタスの売上は、4,200万円から6,200万円に増加。（H28～H29）
- ライフスタイルやニーズを考えた商品開発を行い、独自ブランドで全国展開。
- 安定的に利益が上がる農業システムを確立したことで、国内外からの視察が増加。
- 視察を機に、農業へ参入した企業もあるなど、他地域への波及にも寄与。

20

プロデュース賞

有限会社 こやま園

地元食材の提供・活用

6次産業化

輸出

たんば
兵庫県 丹波市



— 新丹波ブランド 丹波なた豆茶を世界に発信 —

原材料のなた豆は
地元グループ農家と栽培



なた豆の栽培から商品まで
自社にて一貫生産



ベトナムのスーパーにて
試飲販売の様子



概要

- 昔から丹波地方で民間薬用に栽培されてきた「なた豆」を「なた豆茶」として、加工販売。
- 地元農家と連携し、自社農園で原料のなた豆を栽培。加工も自社工場で行い、自社での一貫した生産を実施。
- 海外展開も積極的に行い、香港やベトナムに現地法人を立ち上げ、輸出を開始。

成果

- 「なた豆茶」の売上は、8,000万円から1.2億円に増加。（H25～H29）
- 輸出額は、100万円から1,000万円に増加。（H26～H29）
- 「なた豆茶」を通じて、地元丹波の食材（栗・黒豆・野菜等）を首都圏のレストランのメニューに取り入れてもらうなど、丹波ブランドの知名度向上に貢献。